

委託事業実施内容報告書

平成20年度地域日本語教育支援事業【日本語教室設置運営】

受託団体名 インターナショナル・コミュニティ・ネットワーク (ICN)

1 事業の趣旨・目的

親の国際結婚などで学齢期途中で来日した子どもたちが、日本での学校生活に慣れ、教科学習に取り組むための日本語学習支援をする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
2008年 8月1日 15:00～ 16:00	持丸邦子 湯沢智子 横溝賀代子 小田良子 山下貴子 滝本美喜 小川珠子 池上摩希子	1. 自己紹介 2. 事務報告・連絡 3. 日本語援助の現状報告;学校 夏休みの教室・日本語ラウンジ 4. 質疑・応答 5. 今後の予定	運営委員の初顔合わせとなった。 第1部で、中国帰国者定着センターでの子どもの日本語指導のとりくみを小川・池上両先生からご紹介いただいたあとでの運営委員会だった。 委託事業開始から1ヶ月の時点であり、夏休みの教室が始まっているということで、子どもたちとの実際の指導場面に即した話ができた。
2009年 3月13日 17:00～ 18:00	持丸邦子 湯沢智子 横溝賀代子 小田良子 滝本美喜 池上摩希子 (社会教育課・佐藤尊之)	1. 本年度の支援報告;支援活動・広報活動 2. 学校教育課・教育センターの支援;本年度・来年度の 3. 議会質問(傍聴報告) 4. 来年度への可能性;生涯学習推進センター・学校教育課・PTAとの協働 5. 社会教育課・生涯学習センターの体制 本年度・来年度	今回の運営委員会も第1部で池上先生から実際の指導に当たっての学習会を行った。あとに開いた。主な議題は公的な機関との連携のほかり方であり、来年度に向けて、それぞれの機関との連携への課題を話し合い、また、問題を市民に周知してもらうために議会でどのような質疑がされたかの報告もしてもらった。社会教育課からは2名出席していただき、今後の連携強化の方向性を確認した。

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 ICN 子どものための日本語教室
- ② 開催場所 新所沢公民館・新所沢東公民館・生涯学習センター・
市立所沢中学校・市立美原中学校・市立向陽中学校
- ③ 学習目標 子どもたちが楽しく学校に通え、教科学習に取り組むための日本語学習を支援する。
- ④ 使用した教材・リソース ひらがな・カタカナ・漢字ドリル／『こどものほんご1・2』／『みんなの日本語』初級Ⅰ・Ⅱ各国語版／DVD
(日本の地理・世界の地理・日本の歴史・『ようこそ！さくら小学校へ～みんななかまだ』／指差し会話帳(インドネシア語・中国語)／電子辞書／教科の教科書／地図帳
- ⑤ 受講者の募集方法
市内小・中・高への DM / 市役所広報の「とびたつひろば」／社会教育課から各学校へのチラシ配布／学校教育課を通して校長研修会での案内／各校 PTA への案内
(添付; 配布チラシ夏休み・ICN マンスリー2009年1月号・春休み)
- ⑥ 受講者の総数 19 人(延べ人数ではなく, 受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 309 時間 (全 144 回)

日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7/2,9,10,17(4), 9/3,4,10,18(4),24, 25, 10/1,2,8,9(4),15, 16(4),21,22,23,29, 30(4), 11/6,12,13,20,25, 26, 12/2,3,4,5,9,10,11, 12,16(4),17, 1/9,14,15,16,20,21, 22(4),28,29,30, 2/4(5),9,12,13,16,1 8(4),19,20,23,24, 25(4),27	139 時間 左欄 () 内以 外は 各2 時間	1人	中国・ 中国語(1 人)	教授者 4人	美原中学校派遣(取出教室)()内記載 以外は各2時間。 主な使用教材;『みんなの日本語 I (中文版)』/教科書(小学校国語・中学校数学・歴史・公民)/ドリル「高校入試基礎の完成」(英語・社会)/DVD 日本の歴史/地理/『埼玉県県立高校入試問題(最近6カ年)』/『みんなの日本語』中国語版
②	9/24,10/8,22,11/26 12/10,24,1/14	14 時間	1人	インドネシア インドネシア語(1 人)	教授者 1人	所沢中学校派遣(取出教室) 『指さし会話帳インドネシア語』
③	10/28,31,11/7,14, 21,28,12/5,12,19, 1/9,16,23,2/6.13, 20,27,3/7	36 時間	1人	中国・中国 語(1人)	教授者 1人	向陽中学校派遣 (取出教室) 中国語教科書
④	7/22,23,24,25,28, 29,30,31,8/8,19,20, 21,22,25,26,27,28, 29	38 時間	13人	中国・中国 語(2人)フィ リピン・タガロ グ語(3人) インドネシア インドネシア語(1 人)米国・英 語(5人) モンゴル共和	教授者 15人	夏休み集中教室 (国語教科書/ひらが なドリル/漢字ドリル/ 『こどものにほんご』

				国・モンゴル語(1人)韓国・韓国語(1人)		
⑤	12/25,26,27,1/5,6,7	12時間	1人	中国・中国語(1人)	教授者8人	冬休み集中教室
⑥	3/27,30,31	6時間	4人	米国・英語(3人)日本・タガログ・英語(1人)	教授者6人	春休み集中教室(実際は4/6まで行う)
⑦	毎土曜日(8月・12/27/1/3を除く)	64時間	19人	中国・中国語(4人)フィリピン・タガログ・英語(5人)日本・タガログ・英語(1人)インドネシア・インドネシア語(1人)米国・英語(5人)モンゴル共和国・モンゴル語(1人)韓国・韓国語(1人)ブラジル・ポルトガル語(1人)	教授者20人	日本語ラウンジ(大人と一緒にの教室;支払対象外)

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

学校での授業(中国出身の中3生)(写真なし)

校内の相談室を借りて、1対1で授業を行う。教材は教師が用意する。50分授業を2時限行うが、休み時間も続けて授業をする。授業のこと以外に日本の学校のシステムや母国で受けたことのない授業(例えば水泳)のやり方や必要なもの(水泳パンツ)の購入方法を教える。また、母国での学習状況を聞き出して、学習能力を把握する。漢字を見ると何となく意味がわかる、と言って、なかなか日本語の読みに真剣に取り組まないが、教科書の写真や「日本の歴史」をア

ニメにしたものを見せて、時代の名称や流れをつかませ、ドリルの年表に記入させる。

長期休暇中の集中教室(夏休み)(写真)

子どもたちは、それほど広くない部屋で、1対1で、それぞれの勉強をしている。

夏休みの教室は10時開始だが、朝一番でやってくる子や、終わり30分くらいに寝坊してやってくる子まで、さまざま。受験を控えて、勉強して欲しい子ほど勉強しない。女の子は総じて熱心だ。そして、社交的だ。この日は、お誕生日の子がいて、お菓子とジュースでささやかな誕生日祝いをした。今回の集中教室は、ちょうど、音楽を専門に学んでいる海外からの子どもが二人、そして音楽の先生の卵がボランティアで参加している、という幸運な偶然で、子どもが落ち込んでいるときのフォローがすばらしい。一方で、送り迎えをしてくれる大人がいなくなると来られない小学校低学年の子どももいて、残念な気持ちになる。毎日きちんとやってくる韓国人の親子を見ると、教育に対する国の状況が反映されている、と感じる。



日本語ラウンジでの勉強(↓)



⑩ 支援者の名簿

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
野村 えつ子	中国帰国者定着センター	日本語講師・日本語教育能力検定試験合格	2	アドバイザー
高田 ジャネット	所沢市教育センター	タガログ語	1	アドバイザー
横溝 賀代子	ICN	日本語教師・ロシア語	42	教授者
持丸 邦子	ICN・城西大学・NHK 学園 高校専攻科	国際人材育成（博士号）／社会教育	44	教授者
鈴木 雅明	生涯学習センター人材バンク	数学・理科	40	教授者
湯沢 智子	ICN	日本心理学会認定心理士・メンタルケア協会認定スペシャリスト・埼玉県子育てアドバイザー	27	教授者
辻 恵子	ICN	英語	21	教授者
宇佐見 照子	ICN	国文学	2	教授者
倉橋 圭子	ICN	中国史(博士)	6	教授者
陳 健新	ICN	中国語		教授者
千葉 紀久子	ICN	ロシア語	3	教授者
斉藤 健次郎	ICN	数学・理科	7	教授者
山村 和恵	TIF	数学・理科	9	教授者
山下 貴子	金曜にほんご教室		3	教授者
柳 啓弥	個人ボランティア	福祉	12	教授者
岩本 真理子	個人ボランティア	音楽	5	教授者
新井 さとみ	個人ボランティア	日本語	2	教授者
諏訪 多恵子	TIF	元小学校教師	2	教授者
並木 信子	TIF		3	教授者
橋本 族興	TIF		2	教授者

*参加回数には土曜日の日本語ラウンは含まない。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

子どもによって状況はさまざまである。

- ・途中で帰国する子どももいた。
- ・高校受験をした子も3名いて、全員合格はしたが、高校での勉強についていくためには、今後も支援を続ける必要がある。
- ・当初は専ら、教科学習の支援をする予定であったが、日本で勉強する必然性を感じていないために、学習意欲がわかず、心のケアが必要な子どもも複数いた。

② 学習者の習得状況

①と同様に、学習者により状況はさまざまである。これは家庭での日本語環境によるものが大きく影響しているようだ。子どもによっては、日本語はおろか、両親共が夜勤のために、親がいない時間はインターネットざんまいであったり、気候・風土・生活習慣の違いから生活リズムがなかなか、つかめずに、日中の授業中にボーッとしていたり、遅刻しがちだったりしている子もいた。しかし、総じて、子どもたちは明るい。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

- ・学校が必要な日本語支援を金銭的な遠慮なく、受けてもらえるようになった。
会話の例;学校側「お礼もさしあげられませんが」支援側「文化庁の委託をいただいていますので、ご心配なく」学校側「それは助かります」
- ・子どもたちの日本語支援に力を入れ出す学校がでてきた。反面、学校内の人材でまかなおうとするために、せつかく開いた学校が再び閉じたようにも思える。
- ・これまで見えなかった各学校や個人での日本語支援の取り組みが徐々に増えてきた。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果等

- ・子どもの日本語教育に関心を持つ他の日本語ボランティアグループの方たちと出会えた。
- ・学校との連携が徐々に進んできたようだ。非常にゆっくりではあるが、学校からの認知度が出てきて、年度末には、学校から紹介された中学生が教室の勉強に参加してきた。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

- 現状** 学校への派遣は中学校3校のみ／義務教育年齢に達しているにもかかわらず、学校に行っていない子どもがいる／学校での正式な日本語支援は話せるようになると終わる／学校によって、支援レベルがまちまち(校長先生の認識に影響される)／教育センターからの派遣講師と待遇面での差あり
- 今後の課題** 校長先生の意識改革／親の意識改革／日本語支援レベルのアップ／高校生など青年の日本語支援と居場所づくり／外国人受入のための国の積極施策働きかけ
- 今後の活動予定、展望** 学校への認知度を上げるために教室を続ける／講師の専門性をあげるために研修会を実施・専門性のある講師を養成／校長研修会で日本語支援に関することをテーマにとりあげてもらう。

⑥ その他参考資料(郵送分)

第2回 運営委員会 池上先生 レジюме。

夏休み教室案内・春休み教室案内

PTA 会長への教室案内